

泰日協会学校（バンコク日本人学校）学校だより
Thai Japanese Association School



令和7年度
第7号

<https://www.tjas.ac.th>

小学部職員室

02-319-5457

中学部職員室

02-314-7335

バンコク日本人学校の教育課程の中でも、大きな特徴のひとつである現地校との交流学習会を今年度も実施しました。各学校との交流の歴史は長く、小学部1・2年生が交流するカセサート大学附属小学校は昭和59年から、3年生が交流するグラカム小学校は昭和51年から、4・5年生が交流するシーナカリン大学附属小学校は昭和55年から、中学部の7年生が交流するチュラロンコン大学附属中学校は昭和54年から交流の歴史が続いています。また、例年6年生はチェンマイへの修学旅行時に交流学習会を行っています。これまではワット・メーゲットノーイ校（平成9年より）と交流を行ってきましたが、今年度よりメーワーンウィッタヤーコム校に交流校を変更し、これから新たな交流の歴史を育んでいきます。各学年の今年度の交流の様子を少しずつですが紹介いたします。是非、ご覧ください。

【1年生】

9月10日（水）にカセサート大学附属小学校にて交流学習会を行いました。カセサート大学附属小学校では、歓迎の拍手から始まり、チキンダンス・しっぽとりを行うスポーツ交流や、タイの伝統舞踊を踊る文化交流、色塗りや工作をして楽しむ創作交流を行いました。初めて行う活動が多かったためか最初は緊張した面持ちの子供たちでしたが、交流を重ねるうちに自然と笑顔が増えていきました。ジェスチャー等で心を通わせる子供たちもあり、言葉の垣根を超えて交流することの良さを感じていた様子でした。また、閉会式においては、お互いの学校で練習した「ソングラン」の歌を歌いました。会場いっぱいにタイ語と日本語の歌が響き渡り、心温まる瞬間でした。最後には、カセサート大学附属小学校の子供たちが花道を作ってくれ、「来年も会いましょう。」という気持ちを込めて、手を振りながらお別れすることができました。学校に帰った後「タイ人のお友達ができたよ！」「楽しかった。」とロ々に話す子が多く、充実した交流会となりました。



【2年生】

9月9日（火）カセサート大学附属小学校との交流学習会がありました。昨年度はバンコク日本人学校へ招き、交流した学校です。「去年同じグループだった友達とまた会えるかな。」「新しい友達できるかな。」と胸をわくわくさせながら当日を迎えました。開会式のあと、班ごとに自己紹介やプレゼント交換、ラマヤナ物語の仮面の色塗り、じゃんけん列車をしました。タイの伝統舞踊を教えてもらい一緒に歌って踊る活動もしました。はじめは恥ずかしそうにしながらも、知っているタイ語やジェスチャーを使って積極的にコミュニケーションを取り、一緒に楽しみ、笑い合う充実した時間を過ごしました。また「タイの学校の教室は日本人学校とこんなところが違うんだな。ここは同じなんだな。」「こんなふうに学習してるんだな。」と異文化に興味をもつ姿も多くありました。帰りはカセサート大学附属小学校の友達に囲まれながら笑顔でバスに乗りました。かけがえのない経験を通して、子供たち一人ひとりが心の中にいろいろなことを感じ、これからの自分の成長や生活に繋がっていくことを願っています。



【3年生】

9月15日（月）にエカマイにあるドラカーム小学校と交流学習会を行いました。ドラカーム校とバンコク日本人学校の交流は約50年前に始まりました。毎年、ホストとゲストを交互に担当し、日本とタイの文化交流を行ってきました。今年は、バンコク日本人学校がホストとしてドラカーム校を招き、交流学習会を実施しました。

交流会を迎えるにあたり、子供たちはプラトンボの作り方を覚えたり、お店づくりに励んだり、ダンスの練習をしたりと、一生懸命に準備をしてきました。当日は、ドラカーム校の友達に身振り手振りや習ったタイ語と英語を使って積極的に文化交流を行っている姿をたくさん見かけました。言葉はうまく伝わらない場面がありましたが、同じ活動をする中で、心を通わせ、タイの小学生と仲よくなることができました。子供たちにとっても海外に住んでいるよさを生かした、素敵な経験になったかと思いま



す。そしてこの交流学習会を通して、感じたことや学んだことをこれからの生活に生かしていくことを期待しています。



【4年生】

今年度の交流学習会は、学年目標である「サパーンチャイ（心の橋）」をテーマとし、言語の壁を超えて日本の文化や言葉を紹介し、心と心が通い合う貴重な体験の場となりました。

文化交流では「サパーンチャイ EXPO」と題し、各学級が日本文化を伝えるパビリオンを企画し、忍者体験や書道体験、四季を表現した展示など、各学級で趣向を凝らしたパビリオンを揃え、タイの友達をもてなしました。子供たちは熱心に呼び込みを行い、写真や動画を用いて分かりやすく説明しました。また、「ゲンマーク！（すごいね!）」など、覚えているタイ語を使い、相手と積極的に関わっていました。さらに、体育館交流でのじゃんけん列車などのレクリエーションでは、「楽しい。」「うれしい。」といった感情を共有し、笑顔が絶えませんでした。交流会の最後には、全員でドラえもん音頭を踊り、様々な違いを超えて子供も教員も手を取り合い、みんなの心が一つに結ばれる瞬間を実感することができました。

交流学習会を通して、4年生は互いの文化を尊重し、共感し合うことの大切さを学びました。まさに「サパーンチャイ（心の橋）」を築くことができたと思います。今後の学びや生活がより豊かなものとなることを期待しています。



【5年生】

9月19日（金）にシーナカリン大学附属小学校と本校で交流学習会を行いました。

文化交流では、書道体験と昔遊び交流を行いました。書道体験では、プレゼントするうちに相手校の児童自身が選んだ一字を書きました。「心」や「笑」という字の人气が高く、

中には「愛」という難しい字に挑戦している児童もいました。相手校の児童の名前を日本語で書く練習をしたり、違う漢字を教えたりしているペアもあり、積極的に交流する姿が見られました。また、昔遊び交流では、けん玉やお手玉、折り紙など日本の昔から伝わる様々な遊びを一緒に行いました。シーナカリン大学附属小学校の児童が、短い時間で昔遊びをマスターすることは難しそうでしたが、本校の児童が遊び方の工夫を教えたり、やり方のコツを伝えたりすることで一緒に楽しむことができました。

スポーツ交流では、ダンシング玉入れを行いました。全力で踊り、全力で玉入れに取り組む子供たちの姿は、スポーツの素晴らしさを体現していました。言葉の壁を越えてコミュニケーションをとる経験は、かけがえのないものとなりました。

閉会式を終えた子供たちは、シーナカリン大学附属小学校の友達とのお別れが寂しく、涙を流していた児童もいました。また、姿が見えなくなる最後まで手を振っていました。バンコク日本人学校で学ぶ子供たちにしかできない大変貴重な経験となりました。



【6年生】

6月26日（木）、チェンマイ修学旅行の2日目に、メーワーンウィッタヤーコム校との交流学習会を行いました。今年度から新たに交流することになった学校です。日本文化への興味関心をもつ児童生徒も多く、大変温かく迎えていただきました。また、敷地内にあるタイ・ビルマ方面戦病死者追悼の碑（慧燈財団が建立）を、長年手入れし、守り続けてくださっていることには強く心を打たれました。学校到着後、児童教職員一同、追悼の碑への参拝を行ってから交流学習会をスタートしました。

開会式では、歓迎の踊りとして、美しいタイ舞踊を鑑賞しました。文化交流では、トゥンの作り方を教わったり、ソーラン節のサビの部分教えて一緒に踊ったりしました。ソーラン節では、「腰を低く」や「ひっぱれ」などのタイ語を交えながら体を動かし、活発な交流活動を行うことができました。閉会式では、両校で「思いやりの花」を歌いました。この歌には、花を、人を思いやる優しい気持ちが溢れています。互いの国の言葉で、心を込めて歌う子供たちの姿に、今回の交流学習会の成果が表れていました。





全体を通して、「自分たちの思いを伝えたい、相手の思いを受け取りたい。」という気持ちに満ちた、かけがえのない時間を共にすることができました。今後も、メーワーンウィッタヤーコム校とのつながりを大切に、末永く交流を深めていければと思います。

【7年生】

今年度の交流学習会は、チュラロンコン大学附属中学校で開催され、私たちはゲストとして行きました。開会式ではタイの伝統舞踊である「コーン」の披露がありました。タイの伝統楽器の音色に合わせて繰り広げられる仮面劇に子どもたちは魅了されているようでした。また実施日が七夕ということもあり、文化交流では「マホート」というタイの飾りを教えてもらいました。一緒に活動をする中でたくさんの笑顔が見られ、充実した交流学習会となりました。

最後に閉会式で歌った「カントリーロード」は、両校が日本語とタイ語で素敵な歌声を体育館中に響かせ、思い出の1曲となりました。

